

<受賞者>

秋田 弘俊

北海道大学病院 教授

<功績名>

コンパニオン診断によるがん個別化治療の開発とがんゲノム医療の構築

医師主導治験、がんゲノム医療によって難治性がん対策のブレイクスルーを果たしました

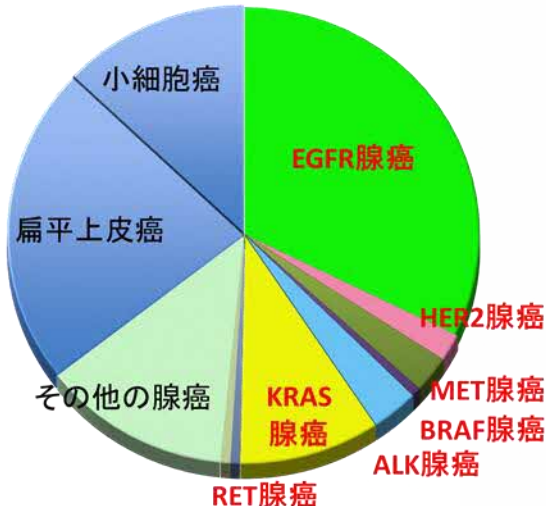
背景

肺がんや唾液腺がんをはじめとする難治性がんの克服にはがん薬物療法の治療成績の向上につながるブレイクスルーが必要である。1990年代までのがん研究の進歩と成果によって、2000年代以降、ドライバー遺伝子変異を標的とする分子標的治療という概念が誕生した。この概念を発展させて、がんの個別化治療、さらにはがんゲノム医療を構築し、難治性がんの克服につなげることが求められている。

研究成果

- 国内初のアカデミア主導の分子標的治療薬及びコンパニオン診断薬の同時開発・同時薬事承認**
HER2陽性の唾液腺がんにおいて医師主導治験を主導して、抗HER2薬のハーセプチンの適応拡大、HER2陽性を診断するコンパニオン診断薬の承認を産学官連携により2021年11月に達成し、従来、効果的な治療薬がなかった唾液腺がん患者の大きな福音となった。これは国内初のアカデミア主導・医師主導治験による分子標的治療薬とコンパニオン診断薬の同時開発・同時薬事承認となった。
- がん遺伝子変異をコンパニオン診断とする肺がん個別化治療の開発**
日本肺癌学会バイオマーカー委員会委員長として、また北海道内の多施設共同・肺がん臨床試験に尽力して、EGFRをはじめとするドライバー遺伝子変異をコンパニオン診断とする個別化薬物治療の概念を確立し、肺がん薬物療法の治療成績の向上や難治性がん対策に貢献した。
- オール北海道のがんゲノム医療体制の構築と臨床実装**
上記の1)及び2)の実績を生かして、わが国全体のがんゲノム医療体制の構築に貢献するとともに、北海道大学病院の「がんゲノム医療中核拠点病院」指定取得（全国11拠点、2018年）において主導的な役割を果たした。さらに北海道大学病院と道内「がんゲノム医療連携病院」を情報通信網で結ぶ「がんゲノム医療ネットワーク」を構築して、オール北海道のがんゲノム医療体制の構築及び臨床実装を果たした。
- がんゲノム医療に関わる高度専門医療人材の育成**
がんゲノム医療やがんゲノム医療に基づく新薬開発に関わる高度専門医療人材の育成に貢献した。

ドライバー遺伝子変異・分子標的治療薬による肺癌の分類（赤字で表示）



北海道のがんゲノム医療

